

東京オリンピック・パラリンピックを活用した地方の魅力発信と 活力創出について

四国部会提出
説明担当 今治市

4年後の東京オリンピック・パラリンピックを前に、いよいよ今秋から、五輪の文化の祭典、「文化プログラム」が始まった。

国は、過去最大規模の文化プログラムを開催することにより、「文化芸術立国」を目指しており、オリンピック開催までの期間、わが国の多彩な文化芸術が全世界に発信される。また、全国津々浦々で、あらゆる層の人々が参加することにより地域の活力が創出され、それがオリンピック終了後も続いていく「レガシー」となることが期待される。

こうした中、文化庁は、全国各地で行われる文化行事を文化プログラムに認定し、支援することを打ち出しており、既に全国各地の自治体において、文化プログラム認定を目指す動きがある。これを好機と捉え、豊富なノウハウを持ち愛媛の多彩な文化を毎年発信している県民総合文化祭を、文化プログラムに位置づけることができれば、県・各市町の魅力を一定規模に集約でき、それらを有効に発信できる。この認定を受ければ、「文化プログラム」という、オリンピック期間中にしかないブランド名でもって多言語対応の情報発信等の支援がなされるなど、愛媛の「文化力」の向上に結びついていくはずである。さらには、この取り組みは愛媛のみならず、国民文化祭を開催した県ではどこも県民文化祭という形で事業が継承されていることから全国展開も十分可能である。

あわせて、先般、全国知事会から国に対し提案・要望された「スポーツ・文化・観光振興施策についての提言」にあるように、低廉な陸・海・空の周遊フリーパスの創設など「訪日外国人旅行者を全国各地へと誘導する施策の実施」が実現すれば、各地の文化プロジェクトに足を運ぶきっかけにもなり、オリパラ効果の地方へのさらなる波及と相乗効果とが期待できる。

よって、全国各地の総合文化祭を文化プログラム位置づけるよう強く要望する。